

---

# 透析導入前の患者に対する 透析室見学での看護介入の課題

江島恵美子、佐々木明美、伊藤喜久子、相原真由美、  
松本和子、佐々木智美、村上久弥子、三浦景子、宇佐美幸子  
秋田赤十字病院 腎センター

## Problems of Nursing Intervention in Hemo-dialysis Senter to Patients before Dialysis

Emiko Ebata, Akemi Sasaki, Kikuko Itoh, Mayumi Aihara  
Kazuko Matsumoto, Satomi Sasaki, Kumiko Murakami, Keiko Miura, Sachiko Usami  
Akita Red Cross Hospital Kidney center

### <はじめに>

透析導入（以下、導入とする）は、患者にとっては人生の大きな転換期となるが、近年保存期腎不全の治療が進歩したことで、計画的に導入を行うことが多くなっている。

当院でも、導入前にシャントを造設し、計画的に導入となる患者が増えており、シャント管理も含めた導入前の患者への支援が看護師の大きな役割となってきている。以前、導入前に透析室を見学した患者から、「腎センター看護師からいろいろな説明を受け、透析に対する不安が軽減し、前向きに透析生活を始めることができた。」という感想が聞かれた。これまでは、透析室見学時の対応が決められていなかったが、シャント造設を機に見学に来る患者が増えてきたため、透析室見学時の説明内容を明確にし、平成19年6月から対応を統一した。

そこで、平成19年6月以降に透析室を見学し、導入となった患者に対して、透析室見学についての聞き取り調査を実施し、導入前の患者が透析室見学に何を望んでいるのかを明らかにし、今後透析室見学を通して、どのような看護介入ができるのか課題を得るためにこの研究に取り組んだので報告する。

### <用語の定義>

看護介入：透析導入に向けて、透析治療に対する理解への援助

透析導入前の患者：導入目的でシャントを造設した患者

ネガティブな印象：透析に対する否定的な印象

シャント確認：シャントの発達状態や閉塞、感染、出血予防のための自己管理方法の確認

## < I. 研究目的 >

透析室見学についての聞き取り調査の結果から、透析導入前の患者に対する透析室見学での看護介入の課題を明らかにする。

## < II. 研究方法 >

1. 研究対象：平成19年6月以降に透析室を見学し、平成19年12月までに透析導入となった患者5名（資料1）

資料1 【対象患者の背景】

対象患者	男性4名 女性1名
平均年齢	56.8才（37～77才）
平均通院歴	16.2年（5～31年）
職業	会社員 アルバイト 2名 主婦 1名 無職 2名

2. 研究場所：A病院腎センター

3. 調査期間：平成19年12月12日～12月26日

4. データの収集方法：透析室見学についてのインタビューガイド（資料2）を作成する。

資料2 【インタビューガイド】

1. 透析導入前について
  - 1) 透析についてどのような印象をおもちでしたか。
  - 2) 透析について何か知っていることはありましたか。
  - 3) 透析を始めるにあたり、負担に感じたことや心配だったことはありますか。  
例 時間的な拘束 通院について 仕事について 体調面について  
経済的な負担 食事について など
2. 透析室見学について
  - 1) 透析導入前に透析室を見学してよかったと思いますか。【はい いいえ 理由】
  - 2) 透析室見学の際、透析生活についての説明、透析室の構造、透析開始までの流れ、スタッフの紹介、シャントの管理についてお話ししましたが、説明内容はどうでしたか  
【よかった よくなかった 理由】
  - 3) 今回シャント手術の際に、透析室見学をしていただきましたが、見学の時期はどうでしたか。【よかった よくなかった いつ頃がよいと思うか】
3. 外来受診の際、腎センターでシャント確認をすることについてどのように思いましたか。
4. 透析導入前に透析室見学やシャント管理で腎センター看護師と関わるることについて、どのように思われますか。
5. 透析室見学の際に、看護師に心掛けて欲しいことや、ご意見・ご感想などお聞かせください。

対象患者に研究の主旨を説明し、了承を得た上で、インタビューガイドに沿って、1)透析導入前の①印象、②知識、③不安について、2)透析室見学の①感想、②説明内容、③時期について、3)腎センターでのシャント確認について、4)導入前に腎センター看護師と関わることについて、5)透析室見学で心がけて欲しいことについての聞き取り調査を実施した。

5. データの分析方法：透析室見学についての聞き取り調査の結果から類似する回答は1件とし、その意味内容を検討した。

6. 倫理的配慮：個人が特定されないようにプライバシーの保護を厳守し、得られたデータは研究目的以外で使用しないことを口頭で説明し、了承を得た。また、聞き取り調査に回答できなくても何ら不利益を受けないことを説明した。

表1 透析導入前について（複数回答） n = 5

印象（6件）	回答数	知識（4件）	回答数	不安（4件）	回答数
・大変そう	（5名）	・血液をきれいにする	（3名）	・通院	（3名）
・一生体調不良	（3名）	・血液の洗濯	（3名）	・経済的負担	（3名）
・透析患者＝死人同様	（2名）	・透析導入の条件	（1名）	・体調面	（2名）
・人生の終わり	（2名）	・何も知らない	（1名）	・特になし	（1名）
・安静で窮屈	（2名）				
・怖い、恐ろしい	（2名）				

表2 透析室見学について（複数回答） n = 5

感想	良かった（5名） <理由>透析への印象が変わったから ・透析患者が思っていたより元気そうだった（4名） ・透析中もリラックスできるのが分かった（4名） ・雰囲気明るいの分かった（4名） ・心の準備ができた（3名）
説明内容	良かった（5名） <理由>透析室や透析生活についてイメージできる内容だったから <他にあればよいと思う説明> ・自分と似た状況の人の話（生活スタイル・通院方法）（2名） ・尿毒症症状が改善すること（1名） ・このままで良い（2名）
時期	良かった（5名） <意見>シャント手術が決定した頃でも良いと思う（4名）

表3 外来受診の際、腎センターでシャント確認することについて n = 5

<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる（3名）</li> <li>・腎センターが忙しそう、行くのをためらった（1名）</li> <li>・外来受診のどのタイミングで行けばよいのか分からず、行かなかった（1名）</li> <li>・手術後の外来受診ですぐに導入したため、シャント確認のためには行っていない（2名）</li> </ul>
--

表4 透析導入前に腎センター看護師と関わることについて

<ul style="list-style-type: none"> <li>・良いことだと思う（5名）</li> <li>&lt;理由&gt;・導入前に顔見知りのスタッフがいて心強かった</li> <li>・透析に前向きになる気持ちももてた</li> </ul>
--

表5 透析室見学で看護師に心掛けて欲しいこと、意見や感想

<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊張しているので、落ち着いた対応をして欲しい</li> <li>・透析患者から経験談を聞けると良い</li> </ul>
--

### <Ⅲ. 結果および考察 >

透析室見学についての聞き取り調査の結果表1～5参照

導入前の透析についての印象は、「大変そう」(5名)、「一生活調不良が続く」(3名)、「透析患者は死人と同じ」(2名)、「人生の終わり」(2名)、「安静を強いられ窮屈」(2名)などであり、今回聞き取り調査をした患者全員が、ネガティブな印象をもっていた。透析室見学をして良かったかには5名全員が「良かった」と答え、その理由は、「透析患者が思っていたより元気そうだった」(4名)、「透析中もリラックスできるのが分かった」(4名)、「雰囲気明るいの分かった」(4名)、「心の準備ができた」(3名)であり、実際に透析室を見学することで透析への印象が変わったので良かったという回答であった。A氏は、知人の透析患者が体調不良で入退院を繰り返したり、数年のうちに死を迎えたのを目の当たりにしたことで「透析＝死」という印象をもっていた。しかし、透析室見学時に「百聞は一見にしかずだった」と話し、これまでの透析への印象が変わったと感想を述べていた。西村<sup>1)</sup>は「保存期腎不全患者が透析にネガティブなイメージをもつ原因には、医療者からよりも同病者や透析患者からの影響が大きく、ネガティブな感情が先行している。」と述べている。導入前の患者が、周囲からの偏った情報により、ネガティブな感情ばかりが先行しないように透析室見学を通じ、透析の実際を知っていただくことで、患者の不足している情報を正しく提供していくことが必要だと考える。

透析について知っていることについて「血液をきれいにする、血液の洗濯」(3名)、「透析導入の条件」(1名)、「何も知らない」(1名)で、インターネットやテレビ番組で積極的に情報を得た患者と、知るすべがなかったと答える患者がいた。

透析を始めるにあたり負担や心配だったことについて、「通院」(3名)、「経済面」(3名)、「仕事」(2名)、「体調」(2名)であり、透析により日常生活がどのように変化するのかを心配していた。

透析室見学時の説明内容については、「透析室のことや透析生活についてイメージできる内容で良かった。」と5名全員が答えた。その他どのような説明があれば良かったかについては、「自分と似た状況の人(生活スタイル、通院方法など)の話をして欲しい」(2名)、「今ある尿毒症の症状が改善すること」(1名)という意見があった。

いずれ透析が必要と言われてきた患者が、シャントの手術を終え導入が目前に迫る中、透析治療の内容よりも透析により日常生活がどのように変化するのかのほうに不安に思っていることが分かった。そのため、導入前の患者に対してはそれぞれのライフスタイルに合わせた透析スケジュールを提案しながら、安心して透析生活を始められるように支援することを説明していくことが重要であると考えた。

透析室見学の時期について、「シャント手術の際で良かった」と5名全員が回答したが、「シャントの手術が決定する頃には透析への覚悟ができていたので、その頃に見学できたら良い」との意見が4名からあった。B氏は「長い外来通院期間、いずれ透析をしなければいけないと言われていても、できるだけ先延ばしにしたいと思っていた。しかしシャントの手術が決まり、パートも辞めて覚悟を決めた。」と話していた。他の患者もシャント手術の決定を機に、透析について

---

インターネットで調べてみたと話しており、シャント手術が透析を知ろうとしたり、生活スタイルを合わせようと、透析に前向きになるきっかけとなっていた。透析について知るすべがなかったと話す患者もいたため、腎センター看護師として導入前の患者に看護介入を始める時期として、シャント手術が決定した頃が望ましいのではないかと考える。

外来受診の際、腎センターでシャント確認することについて、「安心できる」（3名）、「手術後の外来受診ですぐに導入となったため、シャント確認のためには来室していない」（2名）であった。「安心できる」と答えた患者から、「透析室見学に行ったとき、とても忙しそうだったので、シャント確認に行くのをためらった」や「外来受診時のどのタイミングで行ったら良いのか分からず、シャントも問題なさそうだったので行かなかった」という意見があった。シャント造設時から導入までは、シャントを発達させるために自己管理が重要な期間であり、シャントの状態や管理方法を確認することは必要である。導入となるまでの外来受診の際には、腎センターでもシャント確認することを説明していたが、来室時間の説明が具体的でなかったり、患者の遠慮する気持ちから外来受診時の腎センターでのシャント確認が定着していなかった。今後は、外来との情報交換を図り、継続したシャント管理ができるよう、連携方法を検討していく必要があると考える。

透析導入前に腎センター看護師と関わることについて、5名全員から「良いことだと思う」と回答があり、その理由は「導入時に顔見知りのスタッフがいて心強かった。」や「透析に前向きになる気持ちももてた。」であった。

計画的な導入で、心の準備期間があった患者にとっても、導入初日の不安は大きいものである。そのため、透析室見学やシャント管理を通じた継続した関わりの中で、透析スタッフが今後の治療や透析生活のサポートをしていくことを伝え、安心感を与えることが必要である。

透析室見学で看護師に心掛けて欲しいことについて、「緊張しているので落ち着いた対応をして欲しい」という意見があった。現在、シャント造設目的で2泊3日の入院をした際、退院前に透析室見学に来る患者が多いが、腎センターの透析業務が落ち着いていない時間帯のことが多く、ゆっくりと対応する時間をとることが難しいのが現状である。今回の聞き取り調査で、患者が透析について自ら情報を得ようとするのはシャント手術が決定した頃だったため、より充実した透析室見学ができるよう、時期や方法について検討する必要がある。

佐藤<sup>2)</sup>は、「透析導入前に透析に関する正しい知識のある者は、受容がスムーズであるため、導入前の正しい情報の提供が必要である。」と述べている。今後、透析室見学を導入前の正しい知識の提供の場として活用し、関連部署との情報交換をしながら、患者が安心して導入の日を迎えられるよう支援していきたいと考える。

#### <IV. 結論>

1. 導入前の透析についての印象は、ネガティブな印象だったため、透析室見学を通じて正しい情報提供をしていく必要がある。
2. 導入前の患者は、透析治療の内容よりも、透析による日常生活の変化を不安に思っており、

---

患者個々のライフスタイルにあわせた透析スケジュールを提案し、安心して透析生活を始められるよう支援することを説明していくことが重要である。

3. 外来受診時の腎センターでのシャント確認が定着しなかった理由は、来室時間の説明が具体的でない、患者の遠慮する気持ちからであり、外来との連携方法を検討する必要がある。

4. 導入前の患者に看護介入を始める時期として、シャント手術が決定した頃が望ましく、透析室見学を行う時期や方法についてが、検討課題である。

#### <謝辞>

本研究を進めるにあたり、ご指導、ご協力くださいました皆様に感謝いたします。

#### 引用文献

- 1) 西村めぐみ：慢性腎不全患者の透析療法に対するイメージ、成人看護Ⅱ P117～P119 2000
- 2) 佐藤はるみ：透析導入後の心理過程における看護婦のかかわり、山形済生館医誌第21巻第1号 P55～P60 1996

#### 参考文献

- 1) 福西 勇夫：透析導入をはさんでの心理的变化、透析ケア vol.5 No.10 P34～P37 1999
- 2) 牛崎ルミ子：透析医療を担う各職種の役割の現状とあるべき姿 臨牀透析 vol.21 No.11 P32～P33 2005
- 3) 大浦まり子：透析看護における教室を再考する 臨牀透析 vol.22 No.3 P67～P72 2006